

ごとう通信

第 61 号

平成 18 年 1 月 1 日

あけましておめでとうございます。

本年も皆様、どうぞよろしくお願いいたします。昨年末は何かと忙しくしていましたが、新年は連休スタートの予定。いくつかの仕事はありますが、少しのんびり出来そうです。おかげで今年最初の仕事は「ごとう通信」作り、その後は大掃除で、手が空いたら年賀状づくり：：かなりずれた生活をしています。皆さんのお正月はいかがでしたか。

時代遅れと感ぜますが、僕たちが小さい頃は凧あげや百人一首、カルテなどはまだやっていましたね。コ

マ回しをした記憶はありませんが、と言っても僕たちの時代に流行った凧



ど飛びました。

僕が小さいころ住んでいたアパートのすぐ上に大きな広場があり、正月はそこで凧揚げをするのが恒例でした。ある正月のこと、クリスマスに買ってもらった「ゲイラカイト」を持って広場に行き、調子よく飛ばしていると強風が吹いてきて、あっという間に大空の彼方に。またこれがよく飛ぶんです。残った糸巻きを持ってうなだれて帰宅して以来、僕の凧あげの歴史は終わりました。どこに行っちゃったんでしょう、あの白いゲイラカイト。



映画の話

映画を見る機会が少なく、話題の映画も劇場で観ることがほとんどないのですが、今月はぜひ観にいたいと思うものがあります。実は、昨年夏からある人から観てね、と言われていた映画、「あおげば尊し」です。市川準監督、重松清原作、テリー伊藤さん、薬師丸ひろ子さん主演。僕に薦めてくれたのは「シネサロン」にも参加してくれた俳優の谷田文郎さんです。彼は、出演とともに葬祭コーディネートとしても協力しているそうです。

内容は、お父様が末期がんの告知をされ、在宅介護から亡くなられるまでの家族の人間描写です。頑固な教師だったお父様と同じく教師の光一（テリー伊藤）家族の葛藤の中で「生きること、死ぬこと」の意味を考